



携帯 QR コード

会報誌 有縁千里

# うえんせんり Vol.25

今回の特集

- ・お墓の話 (第7回有縁会より)
- ・悲嘆の小冊子を作成しました
- ・第8回有縁会
- ・書をお譲りいただきました

 **西村交益社**  
株式会社  
<http://www.koekisha.info/>



〇一一年九月二日、弊社は創業五十周年を迎えます。私が生まれて四八日目に、八鹿町新町の永源寺の門前で、両親は「八鹿葬具店」を始めました。それから今年で四九年。来年には半世紀になります。

当時大工であった父は、製材所から材料を分けてもらい、一〇〇%手作りの棺を一人で作り、自転車の荷台に載せて運んだそうです。父三三才、母三〇才、資金も車も電話もない、なんとも心細い船出でありました。

この七月、私は四九歳になりました。会社もなんとか今日まで続いてきました。私の人生と一緒に会社は歩んできたことになりました。家業にきちんと携わってからは約二二年。しかし、恥ずかしながら、厄年を終える頃までは、いかにこの仕事から逃げるかを考えていました。私の人生は、この仕事をなぜしなければならぬのかを、意味づける為に多くの時間を過ごしてきたようなものです。皆さんからすれば、なんと無駄なことかと思われるかもしれません。

時代と経済環境がめまぐるしく変化する現代では、起業して十年後に存続している会社は数%と言われています。その中で半世紀近く続けられたのは、本当に有難いこと。奇跡のようなことでもあります。当り前の話ではありますが、代価をお支払いだけのお客様がいらっしゃるから、会社

不要の方はお手数ですが下記迄ご連絡ください。今後一切送付しないよう致します。TEL 079-662-5909

は売上を上げることが出来ます。いくらよい商品やサービスを提供しても、お客様がいらっしやらなかつたら、売上は発生しません。選んでくださる方がいらっしやるのが会社存続の大前提であります。特に地域密着の職種の場合、地域の方に守り育てて頂いたと申しても、過言ではありません。

また、半世紀の人生を振り返ってみますと、人に助けていただき、お客様でここまで生かされたとつくづく感じます。人は一人で生きられるわけはなく、また、周りに縁ある人がいてくれるからこそ、社会的な生活を送れます。

弊社では、五十周年に向けて、いくつかのことを考えています。これから徐々にお知らせしていくこととなりますが、縁とお陰様の気持ちを大切にしたいと思えます。またこれからは、「近くをはかるものは貧乏。遠くをはかるものは富む」という言葉のように、少し先を見据えて、次の五十年もお陰様だと申せるような会社であることが出来ればと、願っております。ただ、この言葉より、本当はチャップリンの「物事を見るときに、あまり近くで見ると人生は悲劇に見えることがあるが、そんなときでも、離れてみると喜劇になる」のほづが、私にはしっくりくるのですが...

第七回有縁会より（二〇一〇年五月九日）

「お墓の話、そくなんだ！」講演概略

講師 日本石材協会副会長 射場一之氏

### ●お墓とはどんなものなのか

日本のお墓に影響を与えた宗教・思想・神話・遺跡などに共通するある思想とは

「お墓参りをする」と「先祖様は子孫を幸せにしてくれる」という事です。

柳田邦男の「先祖の話」には、「ご先祖様をお祀りすること」が、「これまでにごくさんの「幸せな家庭」を築き上げてきた事例が、膨大な民族学資料の中から抽出・要約されています。逆に、ご先祖様には「子孫の家業・生業の発展、家の永続を願い、その為にいつも子孫を加護し、悩みや苦しみを救いたい」という「志」があり、**それを実現する力**を持っていると信じられてきました。

ご先祖様をお祀りする四つのものとして、お墓・仏壇・神棚・神社があげられます。

魂魄という言葉があります。

魂の字は、云十鬼で成り立っており、云二気体のような状態のこと。鬼二人が死んだ状態のことです。そして、その魂をお祀りするものが仏壇です。魄の字は白十鬼二亡骸で、白二白骨の意味です。この魄をお祀りするのが墓です。日本人のお墓は、生者の喜び（家業

生業の発展、無事息災、豊作、大漁）と死者の喜び（お祀りしてくれること）から成り立っています。日本人のお墓の本質をひとことというなら、**幸せのシンボル**であると言えるでしょう。

### ●お墓を購入するときの注意点

墓石の形は、大きく分けて二種類です。和型（神戸型・大阪型・京都型）とオリジナル（愛煙家の故人にはマイルドセブンを忠実に再現したお墓。つり好きの方には魚を。白バイ隊員だった方には白バイにまたがった故人を彫り上げる）です。

オリジナルにする時は、極端にデザイン性の強いお墓にはご家族が入りたがらないので注意検討が必要です。又、石の色合いは、青か赤か黒かピンクか。石の産地は国産材か外国材か。石の加工地は国内か中国か。書体は、楷書・行書・草書・隷書のどれにするのか。等をよくよく検討していただく必要があります。

### ●要注意な石材店を見分けるポイント

#### ●信頼できる石材店の選び方

悪質な業者は、「店舗や工場事務所を見せたがらない。その場で契約を迫る。価格の安さだけをアピールする。在庫品を押し付ける。他店の価格を気にしてきやすく値引きに応じる。全額前払いを要求する。断

ってもしつこく押しかけてくる。」などの特徴があります。**信頼できる石材店**は逆のことと言えます。「店や工場工事現場に来ることを歓迎してくれる。店や工場工事現場が整理整頓されている。話をきちんと聞いてくれる。石に詳しい。宗教仏事に詳しい。考える時間を与えてくれる。契約書保証書がある。アフターフォローをしてくれる。産地証明書・お墓ディレクター認定書がある。」お墓は、大きな買い物で、日常いつでも買うものではありませんので、参考になさってください。

### ●普段のお墓の手入れ（注意点）

真夏には石がかなりの熱をもち、冬場は凍結のおそれがあるので、真夏・真冬はジヤバジヤバ水をかけない。墓の手入れはきれいな（自分お顔がふけるような）タオルですること。たわしでこすらない事。洗剤は使わない事。お酒・塩は変色変質するのでかけない事。（供え物も同じことが言えるので、持ち帰る方が良いでしょう。）



## ■ 悲嘆の小冊子を作成しました

ほんの数年前まで葬儀は自宅で行なわれ、村の方々が、手続きから祭壇やお寺の世話、そして食事の準備まで、葬儀が発生して起こりうるほぼ全てのことを、代行し判断し、決済をしていました。これは日本の農村地帯における相互扶助という、伝統文化そのものでした。そのようなシステムが作られた理由のひとつに、悲嘆(グリーフ)対策があります。家族を失った悲しみからより早く回復するためには、悲しみに浸ることも大切なのです。家族が悲しみに専念できるよう、回りが諸般のことを行なうシステムが、自然に作られていたのです。

しかし、現代では、葬儀は村落共同体で行うものではなく、家族、場合によっては個人が行なうものになってしまいました。そのような状況の中で、家族は悲しみに浸る暇もないことしばしばです。悲しむ暇もないほど忙しくすることで、悲しみからの脱却を図る方法もありますが、これがグリーンケアにならない方もいらっしゃると思います。日本人は、平均して、大切な方を亡く

した悲しみから回復するのに、四年半もの時間が必要といわれております。

葬儀社の役割は、時代の要請にあわせてどんどんとめまぐるしく変化しております。ほんの二十年ほど前までは、物品販売を行っていたればよかったのですが、村落共同体や親族が行なっていたことまでも葬儀社が肩代わりするようになりました。そして、最近では葬儀後のお手伝いをすることも多くなってきました。そんな中、「ご遺族の精神的な支えについても、葬儀社に依頼要望される方が現れてきました。これらの役割を以前は、寺院や親族知人が担っていたのです。時代は確実に変化しております。ただ、実際にはどの様に関わればよいのか、正解が見出せないのです。

弊社も数年前から、グリーンケアについての研究を重ね、セミナーや研修会にも参加して、資格を取得し、知識と情報と経験を蓄積してきたつもりではおりますが、なかなかきちんとした道筋を見出せずにあります。

そんな中、指導を受けております日本グリーンケア協会より、葬儀社におけるグリーンケアの実践に取り組んでおられる、北海道岩

見沢市の岩見沢公益社を紹介されました。そして、好意により、岩見沢公益社が「遺族に配布しているグリーンケアの小冊子」の使用を許可して頂きました。また、日本グリーンケア協会より、専門家の派遣を斡旋して頂けることにもなりました。

今後は、お世話させて頂いた喪家には葬儀後にお渡しするようにいたします。また、有縁千里を読まれて、「ご入用だと思われる方にもお渡しするつもりです。無料ですので、どうぞご遠慮なくお申込みください。」「グリーンケアの本をください」と、ご連絡ください。

弊社の取組みが、何らかのお役に立てれば幸いです。





## 第八回有縁会報告

七月十一日午後より、つるぎ会館にて第八回有縁会を行いました。左記はその内容の要約です。

第八回有縁会より

### 生命保険

吉谷保険事務所 吉谷昌平氏

#### 一 生命保険って「何のため」にあるの？

大きく分けて4つの金銭的な不安に備えるためです。

- ① 万一への不安
- ② 病気・怪我への不安
- ③ 介護への不安
- ④ 老後への不安

#### 二 生命保険の役割と生命保険の形

生命保険は、契約内容に従ってみんなで公平にお金を出し合い、誰かの万一に備え、相互扶助の精神で知らず知らずの間に助け合いをしていることとなります。

形に表すと縦軸が金額、横軸が期間となり、生命保険は四角。1回でも掛け金を掛けるとその時点で満額保障額が用意されているので、いつおこるか分からないままの備えとなります。預貯金は三角形で少しずつ金額が増え、期間が短いと手にでき

る金額も少ないのが特徴です。

### 三 生命保険の種類

大きく分けて基本3種類

- ① 定期保険・期間が定まり、満期保険金がないもの。掛捨てと言われるもの。
- ② 養老保険・期間が定まり、満期保険金が支払われるもの。
- ③ 終身保険・保険料の払込が終わっても、一生涯、保証のあるもの。それぞれの保険を組み合わせたり、特約などが付けられたりして、いろいろな保険になっています。

### 四 生命保険にご加入されるときに、もっとも大切なことは

- ① 何のために保険に入るのか
  - ② 保険金は、いくら必要か
  - ③ いつまで保障が必要か
- 年令や家族の有無によって変わってくるはずですので、あなた自身の目的をはっきりさせておくことが大切です。

### 五 生命保険の使い方って？

- ① 万一死亡した場合に、死亡保険金が支払われ、家族を守る

- ② 障害状態になったとき、以後保険料を払わなくてもよい保険が多い
  - ③ 障害状態になったとき、以後保険料を払わなくてもよい保険が多い
- 終身保険の場合、自分の保険を担保に解約返戻金の9割まで借入れ入れることができます。



### 六 保険の受け取り

生存していても受け取れる場合があります。それは、高度障害の場合と余命宣告をされた場合です（リビング・ニース特約）

\* 保険金受取人が先に死亡し、身寄りがないうときは、保険金の支払先がないので払うことができません。他人でも、受取人にする事ができることを知っておいて下さい。

お問合せは吉谷保険事務所へ

TEL 090-11070-1785

(うんせんりを見たとお伝え下さい)  
つるぎ、お気軽にお電話下さい

### 第九回有縁会 つるぎ寄席

## 笑福亭鶴二

□日時：9月9日(水)

□会場：西村文藝社つるぎ会館

□費用：5000円(税込)

S席早期申し込みは、好評のうちに受付終了いたしました。

なお、八月十二日までにお申し込みいただきました方には、引き続きA席をご用意いたします。プロの本格的古典落語をこの機会に是非！

詳しくは同封のチラシをご覧ください。



### 第八回有縁会より

#### 「孤独死・孤立死を防ぐために」

日本初遺品整理専門会社

キーパーズ代表 吉田太一氏

今回、孤独死・孤立死を防ぐためにというタイトルになってるんですが、孤独死・孤立死を防ぐことを僕は一番の目的に話してるんじゃないんですね。本当のことは、亡くなったときに、一日、二日経って「あれ？あの人どこ行った？」って言って気にかけてくれる人が一人もいないようなことにならない、人間関係を保った生き方をしましょう。そういう生き方をしていれば一人で亡くなったとしてもすぐにだれかに気づいてもらえる。万一、気づいてもらえなかったときに、一週間も経ったらどんなことがおこるか現実を知ってもらって、そうなりたくないなという強い気持ちを持ってもらいたいなということです。

私は、日本で初めての遺品整理屋さんをやったんですけど、なぜこの仕事を始めたかと言いますと、板前から運送業までいろんな職業を転々とした後、軽トラ一台で引っ越し業を始めました。ある家の引っ越しに行くと、何個かの荷物を送るよう頼まれ、

依頼者はそれ以外の荷物の処分先を考えていました。「まとめてやりましょうか？」と声をかけるとすごく喜ばれ感謝されたんです。遺品の整理だったんですね。今まで、お客さんにこんなに喜ばれたことがあったらどうか？これを専門的にやろうと思ったわけです。まだ、どこにも遺品整理業はなかったんです。で、スタートしたわけです。

今まで約八年間やってきて、一万数千人の仕事をお受けし、今でも毎年一五〇〇件のご依頼を受けています。その中で二〇〇から三〇〇件が孤立死。孤独死と孤立死の違いは、孤独っていうのは、人の感情とか気持ちの中のものなんで、外から見ても分からない。第三者が、勝手にあの人には孤独だったって決めるのは、失礼。孤立というのは、誰もいなくなって独りぼちになった状態で、その状態のときに亡くなってしまふことが孤立死。これは、実際に目に見て分かることなんで、今は、統一して孤立死を使っています。

遺品って何でしょう？人間しか当然残せません。独り住まいの人を基本に考えると、部屋に何にもなかったら当然暮らしていけない。テレビや冷蔵庫など、昔、故人が気に入った物。それらに囲まれて、癒されて

いた物。一人ぼっちの生活をじっと見つめてきた物。言い方を変えれば遺品って、長く連れ添った親友みたいな物なんです。遺品のイメージは、身内の遺品は気持ち悪くないけど、他人の遺品は気持ち悪い。僕も昔はそう思っていました。でも、死んだ人が使っていたのではなく、生きてた人が使っていたもので、たまたま使っていた人が亡くなっただけ。遺品っていうものについて考えていくと、物を大切にすることを感ずてきます。

ここでDVDの放映(二〇分)

内容・・・主人公の弧次郎さんは、独居老人。家族や周りの人とのつながりを自ら避け孤立死。一カ月後に発見されるといふストーリーをアニメ化したもの。最後には、ゴミが散乱する畳の上に遺体の影が写っている実際の写真が映し出される。



このDVDの目的はショックを与えて、これは他人事じゃないよと思わしてほしいんです。孤立死は、五〇代から六五歳が一番多くて、高齢者は意外に少ないんです。高齢者は自他共に高齢者って認識しますからね。日本の社会ってというのは、中学・高校・大学を卒業してから、だいたい六五歳という年齢までの間、海に飛び込んで自力で向こうの島まで泳ぎ着きなさいっていうしくみになっています。最初のうちは若いからがんが泳いでいくんですよ。でも、五〇才を、超えると結構疲労もピークに近づいて、疲れてきて、波が来るとおぼれてしまふんです。

一九七〇年頃に自営業者と給与所得者の割合が逆転してゐるんですね。それまでは自営で生計を立てている人が多かったのが、サラリーマンがどんどん増えて、企業に対しての依存度が高くなってしまっている。

オタクという言葉がありますよね。人とコミュニケーションがとれず一人ぼっちで生活している。これの元祖が六五歳くらい。そういうことも考えて、五〇歳から六五歳の人の孤立死が今、一番多いのかもと推測されます。これから、どんどん年齢が下がっていく傾向があります。

バランスが崩れた人間が増加し、元に戻す作業のできない人が増えています。

男の人には、変なプライドがあって、一人暮らしになっても、助けてほしいって言葉がないですよ。でも、お願いすれば助けられる女性はいっぱいおられるらしいです。プライドが許せば、参考にしてください。

また、男の人は、目的、結果、結論がないと、長くしゃべることが不可能なんです。仕事で目的、結果に沿ったことばかり考えてきていたから、しかたないんです。結果のない生産性のない地域の話の中でずっとやってられへん、飽きてしまふ。だから、人付き合いが難しい。今現状は、男性の方が孤立してしまうことが多いです。

ただし、今後女性が増えてきます。女性の仕事時間が増えてきて、世間話をしている時間が減り、コミュニケーションがとれなくなり、孤立死の危険が増えてきます。

孤立死を減らすためには、じゃあどうしたらいいのか？これから何をもうちょっと意識したらいいかお話しします。自立度があり、社会的バランスが保てれば、当然孤立死は減少します。



その次に、一日二人以上の人と挨拶すれば孤立死の可能性は減ります。自分から声をかける。永遠に違う人と話すことはできないので、一週間もせんうちにだいたい毎日決まった人になる。そうすれば亡くなっ

て一日、二日で気づいてもらえる可能性がぐっと高まる。

また、親友よりも友達を複数持つ。家族だから、親友だからとやられると、そこには義務とかストレスがあります。でも、友達だったらまあまああしあないなって言えるわけです。同居している家族は、ある程度当てにしてもいいかもしれませんが、それよりも友達をたくさん作るほうがいいと思います。

アパートの中はドアを開けないとわからないじゃないですか？あれと同じようなことが家庭の中でおこっているかもしれない。食品ってというのは、何月何日に死にますって書いてあるわけです。最近、偽装問題等でうるさいですよ。その日付を見て物を買って家に帰って冷蔵庫に入れます。忘れられて、とんぱん冷蔵庫の奥に奥に入っていく。そして、賞味期限切れで死んでしまう。これって、部屋を開けないと気づかない孤立死と変わらない。だから生活の中のヒントとして、考えるきっか

けとして、冷蔵庫を開ける度に孤立死を思い出してほしいなと思います。そして、壊れた電化製品はすぐに修理する、元に戻す習慣を身に付ける意味でも意識してもらいたい。

うちでは、遺品整理の事前見積もりを無料で受けており、今現在は一〇〇名位の方の依頼があり、そのうちの九五%が女性です。自分のことは、自分で考えて、自立しながら有意義な人生を送ってください。

最後に、皆さんに何歳まで生きますか？って聞いたら、決めていない人が多いです。何歳まで生きるか決めてください。一年は八七六〇時間、一〇年やったら八七六〇〇時間しかありません。時間に変えるとおっしゃるんです。時間が決まり、目的地が決まれば、今、優先的に何をすればいいかわかってくるんです。まずそれをやり出すわけです。中にはうまくいくことがあるんです。うまくいくとだれかにしゃべりたくなる。コミュニケーションが出てくる。聞いた人間もうらやましくなり影響されて何かしようと思ったりするんです。そういうふういきちんとやっている人は、友達も増えるし、毎日が楽しいし、目的達成のために健康にも気をつけるし、まあ多分一〇年経ってもなかなか死なへん。

こういった、人とのつきあいやコミュニケーションであふれている生活の中で毎日を生きていると、孤立死とか全然関係なくなります。

僕たちは、孤立死をした何百人の人たちの遺品整理を通じ、いろんなことを学ばしてもらっています。こういうふうにお話すること、また、DVDを作ることによって、これから先の人生の予防とか対策として少しでも役立ててもらえたら、ありがたいなと思います。



書をお譲りいただきました



つるぎ会館に、八鹿町在住の西野玉龍先生の書を譲って頂きました。小学校三年生で先生にお会いして以来今日まで、先生には親・子・夫婦三代に渡ってご指導いただきました。

私は先生が八鹿で、書道教室を開かれて初めての生徒でした。若く活力あふれる先生とギャングエイジの悪ガキ達の書道教室が、どの様なものであったかは、皆さんの想像にお任せしますが、筆を持って半紙に向かっているより、雑巾を持って墨汁の点々とする廊下に向かっている時間が、長かったように記憶しております。今から思えば、実に楽しい思い出です。

書は、金子みすゞの、詩「王子山」の中の一節です。

木  
の  
間  
に  
光  
る  
銀  
の  
海  
わ  
た  
し  
の  
町  
は  
そ  
の  
中  
に  
竜  
宮  
み  
た  
い  
に  
浮  
か  
ん  
で  
る  
銀  
の  
瓦  
と  
石  
垣  
と  
夢  
の  
や  
う  
に  
も  
霞  
ん  
で  
る

なぜ、金子みすゞの詩なのかと、お尋ねしたところ、ご自身が好きで、特に「王子山」には、夢があると、感じられるそうです。同じ詩を別の作品にも取り上げられております。

我が家と深い縁のある西野先生の書を飾ることが出来、本当にありがとうございます。いつも会食室に掛かっておりますので、有縁会などでお越しの際に、ご鑑賞ください。西垣先生の絵画とともに、つるぎ会館を彩って頂いております。ふるさとに縁のある方の作品で、お越し頂く皆様のお気持ちと和めば、これほど嬉しいことはありません。

今後の有縁会の予定

- ▼第9回有縁会「つるぎ寄席」  
9月9日（木）
- ▼第1回抜魂供養  
9月16日（木）
- ▼第10回有縁会  
11月20日（土）



### ■ 第一回抜魂供養のご案内

お葬式や回忌法要で使われ、お墓にある白木位牌や塔婆などの処分に困っておられる方、弊社で抜魂供養をおこないます。希望される方は、弊社までお持ちください。費用は掛かりません。弊社つるぎ会館にて、ご導師による性根抜きの読経をして、処分いたします。

**日時** 九月一六日(木曜日) 一四時～

(参加自由です)

**場所** ㈱西村交益社つるぎ会館

(八鹿町国木一三三)

**受付期間** 八月一日～八月三一日まで

(十三日～十五日除く)

**受付時間** 九時～一六時頃まで

**受付場所** 弊社あまご会館及びつるぎ会館

(但し、**通夜・葬儀中はご遠慮ください**)

**受付方法** 位牌・塔婆をお持ちください。

受付にて住所・氏名・故人名・戒名(法名)などを**所定用紙にご記入ください。**

詳しくはお問合せください。  
お持ちいただいた方には、**全員に法要用塔婆をプレゼントいたします。**

お盆やお彼岸のお墓掃除で、お葬式や法要で使われた古い白木位牌や塔婆を片付けます。昔はお墓の隅でそれらを燃やすことも出来ましたが、最近ではそれもままならなくなりまして。お寺によっては、檀家のそれらを集めて、お焚き上げをなさるところもありますが、そういうことが出来なくなったお寺も出てきました。このところご住職様やご遺族様からこれらの処分についてのご要望の声を頂くことも多くなりました。

そこで、弊社では弊社がお世話させて頂いた故人様の白木位牌や塔婆の片付けのお手伝いをさせて頂くことにしました。お持ちより頂きましたものを、導師の読経によりきちんと性根抜きを行い、その後処理いたします。もちろん弊社でもこれらをお焚き上げすることは出来ません。産廃処理ということになります。これらをご了解いただいた上、必要な方は、弊社までお持ちください。

当日は、真言宗ご導師による法要の後、講話をいただきます。参加無料、自由参加です。

### ■ 生きるの死ぬの



出張帰りの特急に乗車した時のこと。下がりの車中は静かで、乗客も数名であった。二列ほど後ろに座っていた七十代と見受けられる二人連れのご婦人の話が、聞くともなしに耳に入ってきた。どうやら永年の友人同士で、城崎まで湯治に向かうらしかったのだが、彼女達は、大阪から乗車以来、車窓から見える新緑の風景などには見向きもせず、ずっと葬儀の話をしていた。お互いのご主人の葬儀の話、戒名の話、散骨をした義妹のことや、最近参列した近所の葬儀のこと、そして自分の望む自分の葬儀のことなど... 話題が途切れることなく、次々と身の回りの死を数え、お互いに説明していた。

また、色々な会合で、初対面の方が私を葬祭業者だと知ると、最近はずと良いいほど、葬儀の話題が出てくる。ほとんどの場合、自分に起こった身近な葬儀の体験談である。そして、そんなつもりは当方には全くないのだが、時には話題の中心に据えられ、さらには、専門家としてのコメントまで求められてしまう。まるで、「ミニ相談会」である。

最近、新聞紙上や週刊誌には、連日のように、葬儀や死に関連する記事が掲載されている。書籍の広告でも、各社共に同様のテーマで書かれた本が紹介されている。「死のタブー解禁」でも言わんばかりの賑わいである。今や死と葬儀は「売れるテーマ」らしい。

四半世紀前、大学の卒論で「尊厳死」を扱おうと思ひ、資料集めをして愕然としたのを思い出した。当時、市販されている書籍の中で、「尊厳死」をタイトルに謳ったものは、わずか一冊しか見つかることが出来なかった。現在のようインターネットで一発検索の出来なかった頃の話である。大学の図書館、研究室の書庫、京都市内のめばしい書店や公共図書館を、すべてあたっての結果であった。その本は、尊厳死を提唱した太田典礼氏のものであったと、記憶している。

そういう頃からみると、現代はまさに死や葬儀がビジネスになってしまったような感がある。今や日々発行される新聞・雑誌・書籍の中に、死や葬儀関連のものを探すのはたやすいと言っか、全てを手に入れ把握することなど、金銭的にも不可能になってしまった。ほんの数年前までは、目にしたものを購入することが出来るほどしか、発行されていなかったのに、である。

我々は誰しもがいつかは死ぬ。だから、自分の死を考えることは、悪いことではない。いや、人生を全うする意味からも、それは必要条件である。しかしながら、現存巷には「死」が溢れすぎている。それもほとんどがビジネスとしての「死」である。お金儲けに繋がる「死」ばかりである。果たしてこれでよいのだろうか。当たり前のことではあるが、我々が死に到達するまでには、生を過ごさなければならぬ。つまり生きなければいけないのだ。そして、よき生の向うによき死があるように思う。

勿論、葬儀費用がブラックボックスでなくなり、オープンにされてきたことは、きちんと誠実に仕事をしようとしている葬祭業者や関連業者にとっては、喜ばしいことである。ようやく普通のビジネスと認知

されたのだと、嬉しくなる。

しかし、大事な情報は、葬儀の費用なのだろうか？お布施の相場なのだろうか？大切ではないとは申さないが、自分の人生で死を前にしたとき、それらの優先順位よりもっと大事なことがあるように感じるのは、私だけではないように思う。未熟者で失敗多き人生を過ごしているから偉そうにいえる立場ではないが、まずは今の日々を懸命に生きることでと、思うのだが…なんてたって、今日は残りの人生の第一日目なのだから。



## ■ 葬式は要らないのか

最近二冊の本が出版された。一冊は宗教学者島田裕巳氏の「葬式は、要らない」（幻冬舎新書 七七七円）。もう一冊は、大手葬儀互助会社長で作家の一条真也氏の「葬式は必要！」（双葉新書 七七七円）である。もちろん、一条氏は島田氏の本の反論として、自説を説いている。

これらの本について、特に島田氏の本について、葬儀業界では知らない人はいない雑誌「SOG」編集長の碑文谷創氏と、「おくりびと」の著者の青木新門氏が、それぞれコメントしている文章を見つけた。勝手な要約ではあるが、今回は碑文谷氏のコメントを紹介します。

島田さんの本が三〇万部近くのベストセラーになったのは、その主張に共感する人がいたからである。しかし、島田氏の「統計数字」の使い方が恣意的である点は、九〇年代の出版不明の、信頼性の乏しいデータを使ったことである。これを「学者」が書くといかにも根拠のあるものと共感者たちに信じられた。

私は「葬儀は人の死を受け止める作業」と一貫して主張してきた。つまり、遺族にすれば、葬儀のプロセスは、グリーンフワークの一步に過ぎない。葬儀で死者と向き合い、死の事実を受

け止めるのがグリーンフワークの重要な一步である。家族のグリーンフワークは、その後一連の葬式儀礼が終了した後、遺骨、仏壇、お墓、遺影などの前で引き続き行なわれていく。こうした死者との関係性のプロセスを無視して、社会儀礼である告別式や通夜に照準して「葬式の是非」「葬式の要・不要」について述べるのがいかに「葬式」の実態からかけ離れているかわかるだろう。

葬祭業者が取り仕切った葬式は、ひたすら業者の人間性に依存するものであり、いい業者にめぐり合えばよし、そうでなければ決められた手順を追っただけのものになった。「葬祭業者に委託する葬式」が悪いのではなく、「葬式をわきまえない葬祭業者」による葬式がしばしば横行したことが問題を起こした。しかし、近年の「職業への自覚」「消費者意識」が、葬祭業者の意識、業態の改善を大きく進めていることも認められるべきである（残念ながら全部ではないが）。

「葬式の不幸」は、死者の尊厳と悲しむ者への顧（かえり）みがないことである。「いのち」は、自分の死を考えても、他人の死を見てもわからない。「いのち」「死」は、近親者の死（二人称の死）を体験して初めて手触ることができ。「葬式不要」と言い残し、遺族から近親者の死を体験する機会を奪う権利は親にもない。誰もが弔われる権利がある。それと同様に、弔う

ことは、残された者の義務ではなく権利としてある。（「SOG」通信第四九号『葬送の視点』より）





## ■ DVDをお貸しします ■

7月11日第8回有縁会で上映しました、キーパーズ製作のアニメ「孤立死（※気づいてもらえない死）—昨日までは他人事…でも明日は自分の姿かもしれない—」（上映時間 20 分程度）。この DVD を無料貸出いたします。これは遺品整理業を行なっているうちに、孤立死の社会的問題に気付いた、キーパーズの吉田太一氏が作成をした DVD です。深刻なテーマですが、アニメにされることにより、ちょっとソフトに語りかけております。先日の講演会ではこの DVD を観客全員で鑑賞し、吉田さんの話をお聞きしました。各地の老人会の集まりや地区での会合などでも上映されております。貸出しを希望されます方は、ご連絡ください。



### ■ 本プレゼント

講演会当日は、あいにく参議院選挙投票日と重なり、何人もの方から「なんで、投票日に講演会を開くんや。聞きに行きたかったのに！」と、お叱りを受けました。けれど、吉田さんの講演会は今年の春にはすでに決定済みで、皆さんにもお伝えしておりました。投票日が後から決まったので、我々にはどうしようも出来なかつたのです…

そこで、今回はいつもと違い、吉田さんの本を全てプレゼントします。但し、お一人様一冊、計十五名の方に送ります。

本は、「遺品整理屋は見た！」（扶桑社二二六〇円）、「遺品整理屋は見た！ 天国へのお引越しのお手伝い」（扶桑社二二六〇円）、「おひとりでさまでまいじょうぶ。」（ポプラ社二二六〇円）、「遺品が語る真実」（青春出版社七六七円）、「遺品整理屋は見た！ 孤立死 or 孤立死」（扶桑社文庫六五〇円）の五冊です。

八月三十一日まで。希望する書名もお伝えください。なお、プレゼントとは他に、吉田さんの好意で、それぞれの著作を、二二六〇円のもの一〇〇〇円、七六七円を六〇〇円、六五〇円のもの五〇〇円、それぞれ販売しております。在庫僅かです。お問合せください。

### 静夜思

風が走る青田の絨毯を真夏の車窓から眺めるのが好きです。随分と田圃も少なくなつたけど、それでも日本の原風景に稲は欠かせないので。僕の命を救ってくれた小児科医に、「あんたの子は牛の子じゃないんやろ？ だったら、ミルクなど飲ませるな。日本人はお米や。母乳が出なんだから、お湯を飲ませろ」と、母は叱られたそうです。現代医療でこの見解が通用するのは知りませんが、半世紀前には、こんな確固たる哲学を持った日本人がおりました。今では、おも湯はそれほどではありませんが、同じ原料で作った別の飲料は格別に好きになりました。これもあの乳児体験のお陰かもしれません。いろんなところにお陰があつて…生きていてよかつたなあ。



メールアドレスが変わりました。  
Funeral@koekisha.info  
ほぼ毎日、確認しております